
一般口演

一般口演12

地域医療連携システム

2018年11月24日(土) 09:00 ～ 11:00 |会場 (福岡サンパレスH平安 (中継未広))

[3-I-1-7] 「くまもとメディカルネットワーク」の利活用推進に関する検討 ～ 情報共有シートを活用した多職種連携の試み ～

○山澤 順一¹, 高橋 英夫¹, 中村 直樹¹, 水口 拓也¹, 水本 千代子¹, 中村 太志², 宇宿 功市郎² (1.国保水俣市立総合医療センター 診療技術部, 2.熊本大学医学部附属病院 医療情報経営企画部)

当センターは、熊本県地域医療等情報ネットワーク『くまもとメディカルネットワーク』（以下、KMN）に参画し、平成27年12月より試験的に先行運用を開始した。パイロットエリア3圏域：阿蘇、水俣・芦北、人吉・球磨および熊本大学医学部附属病院において先行的にシステムを構築し、平成29年4月から県下全域へ連携医療機関を拡張、県全体への普及に向け検証を行い、システム改良や広報活動を展開している。平成30年6月現在、KMN全体で登録者数5957名、利用施設数295施設、同意数23184件を記録し、少しずつ診療情報が蓄積されているため、当センターでは利活用推進の取り組みとして、連携施設間における医療文書の電子的送受信とオンライン画像連携について積極的に活用している。しかし、実際の臨床での利活用に関しては、まだ十分に活用されているとは言えず、特に在宅医療・介護分野での達成度が低い状況である。今回、KMNの利活用推進の取り組みとして、在宅医療・介護分野での情報共有、多職種連携に着目し、情報共有シートを用いた医療・介護分野の情報共有、コミュニケーションツールを用いた多職種連携について試験的運用を行い、問題点や課題について検討したので報告する。

「くまもとメディカルネットワーク」の利活用推進に関する検討 - 情報共有シートを活用した多職種連携の試み -

山澤 順一^{*1}、高橋 英夫^{*1}、中村 直樹^{*1}、水口 拓也^{*1}
水本 千代子^{*1}、中村 太志^{*2}、宇宿 功市郎^{*2}

^{*1} 国保水俣市立総合医療センター

^{*2} 熊本大学医学部附属病院 医療情報経営企画部

Study on promotion of utilization of "Kumamoto Medical Network" - Attempt of multi-occupied collaboration using information sharing sheet -

Junichi Yamazawa^{*1}, Hideo Takahashi^{*1}, Naoki Nakamura^{*1}, Takuya Mizuguchi^{*1}

Chiyoiko Mizumoto^{*1}, Taishi Nakamura^{*2}, Kouichirou Usuku^{*2}

^{*1} Department of Medical Technology, Minamata City General Hospital & Medical Center,

^{*2} Department of Medical Information Science and Administration Planning, Kumamoto University Hospital,

Abstract

The Center participated in the Kumamoto Prefecture Regional Medical Information Network "Kumamoto Medical Network" (KMN), and began preliminary investigations from December, 2013. Pilot area 3 area: Aso, Minamata・Ashikita, Hitoyoshi・Kuma and Kumamoto University School of Medicine Hospital established a system in advance, expanded collaborative medical institutions to all prefecture under the prefecture from April, spread to the whole prefecture, And is developing system improvement and public relations activities. As of August, 2018, the number of registrants in total of KMN, 2975 facilities, the number of used facilities 2,7149 cases are recorded, and medical information is accumulated little by little, so at our center, as an effort to promote the utilization, We are positively using electronic transmission and reception of medical documents among cooperative facilities and online image linkage. However, actual utilization in clinical practice has not been fully utilized yet, and the degree of achievement in the field of home medical care and nursing care is particularly low. In this time, as an effort to promote the utilization of KMN, focusing on information sharing in the home medical care / nursing care field, multi-occupied collaboration, information sharing in the medical and nursing care fields using information sharing sheets, multi-occupational collaboration using communication tools We conducted trial operation and reported problems.

Keywords : Kumamoto Medical Network, KMN, SS-MIX2, HL7, DICOM, HPKI, Regional medical information network,

1. 背景

当センターは、熊本県地域医療等情報ネットワーク『くまもとメディカルネットワーク』(以下、KMN)に参画し、平成 27 年 12 月より試験的に先行運用を開始した。パイロットエリア 3 圏域:阿蘇、水俣・芦北、人吉・球磨および熊本大学医学部附属病院において先行的にシステムを構築し、平成 29 年4月から県下全域へ連携医療機関を拡張、県全体への普及に向け検証を行い、システム改良や広報活動を展開している。

平成 30 年 8 月現在、KMN全体で登録者数 6886 名、利用施設数 298 施設、参加同意数 27189 件を記録し、少しずつ共有する診療情報が蓄積されている。

2. 目的

当センターでは利活用推進の取り組みとして、連携施設間における医療文書の電子的送受信とオンライン画像連携について積極的に活用している。しかし、実際の臨床での利活用に関しては、まだ十分に活用されているとは言えず、特に在宅医療・介護分野での達成度が低い状況である。今回、KMN の利活用推進の取り組みとして、在宅医療・介護分野での情報共有、多職種連携に着目し、情報共有シートを用い

た医療・介護分野の情報共有、コミュニケーションツールを用いた多職種連携について試験的運用を行い、問題点や課題について検討したので報告する。

3. 方法

KMN の利活用推進の取り組みとして、地域での糖尿病患者の在宅療養を支援するために、看護師間で連携し情報交換を行う方法を地域中核病院、診療所のそれぞれの立場で検討した。情報を提供する側と、情報を受け取り利用する側の視点で運用上の問題点や改善点を見出し、利活用推進に関する検討を行った。

3.1 KMNの理解と協力を得るための訪問説明、導入支援について

①連携施設の看護師を対象に、KMNの操作手順と活用方法の説明など研修会を実施し理解を得る活動を行う。

②連携施設と当センターを併診している患者を対象に、KMN加入をすすめ、参加者登録を行う。

3.2 KMNの介護情報ビューアを活用した取り組みについて

当センター糖尿病サポートチームで使用している糖尿病患者情報共有シート(以下共有シート)に指導内容を入力後、KMNの介護情報ビューアの機能を活用し、共有シートを送信し、指導内容の共有化を図る。

3.3 連携施設間の看護師の情報交換ツールとしてKMNの見守り機能の活用について

①糖尿病療養指導に関する問題点や疑問点を当センターへの受診前にメールで送信してもらう。

②当院受診時の指示変更、実施した療養指導をメールで送信する。

4. 結果

4.1 連携施設の理解と協力について

連携施設の看護師を対象に操作手順と活用方法を説明し、KMNについて理解が深まり実際に活用できるようになった。

4.2 介護情報ビューアを活用した取り組みについて

共有シートを連携のツールとして活用した事で、連携施設の看護師は、当センターでの医師指示の変更やその意図と療養指導の内容を共有でき、シームレスな指導に繋がった。また、当センターでは、医療文書の電子的送信を積極的に推進しており、共有シートを診療情報提供書と共に送信する事により、2018年8月の直近2か年の実績で約1263件の電子的送信を実施している。(図2)

4.3 連携施設間の情報交換ツールと看護師の見守り機能の活用について

見守り機能を活用しメールで情報交換を行なった事で、当院では連携施設の問題点や在宅での様子が理解できた。これらの情報交換ツールとしての活用が積極的に行われるようになり、共有シート導入前と比較して、システムの利用回数が2.5倍以上に増加した。2018年8月度の当センターにおけるKMN利用回数のグラフを図3に示す。

4.4 まとめ

今回の取り組み後に、連携施設からの療養指導の相談が増え、患者も連携施設の看護師に相談する機会が増えた事により、医療の質や患者サービスの向上へと繋がった。

5. 考察

KMNの介護ビューア、見守り機能を活用する事で、連携施設間の情報交換がスムーズとなり、療養指導内容を共有しシームレスな療養支援に繋がった。その結果、医療の質や患者サービスの向上へと繋がり、「糖尿病患者情報共有シート」の導入は非常に効果的であった。

今回は看護師のみでの取り組みだったが、今後は、多職種による連携でより専門性の高い療養指導の実践を目指し拡大していく必要がある。そのためにも多くの患者にKMNを理解してもらい加入を推進していく事が重要と考える。

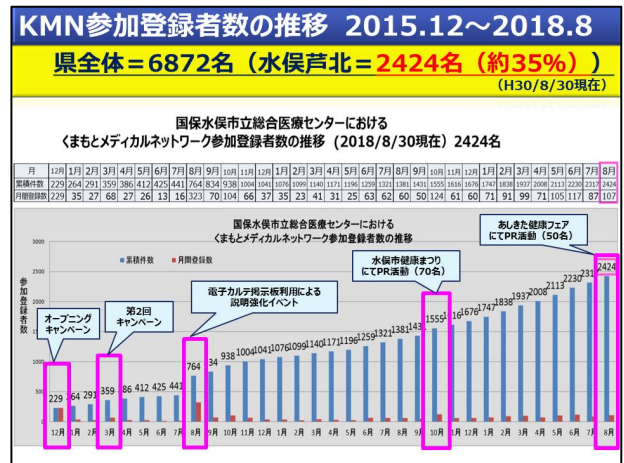


図1 KMN参加登録者数の推移

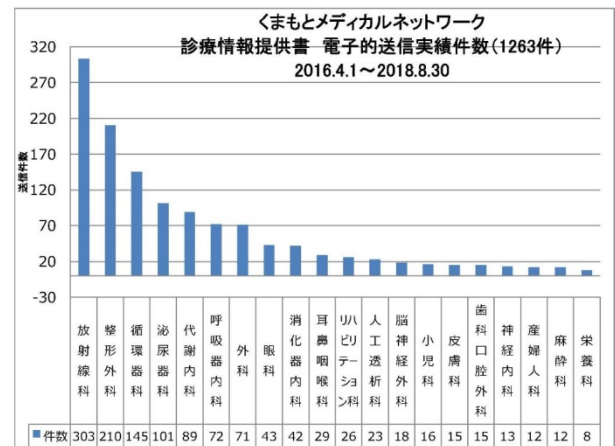


図2 電子的送信実績件数

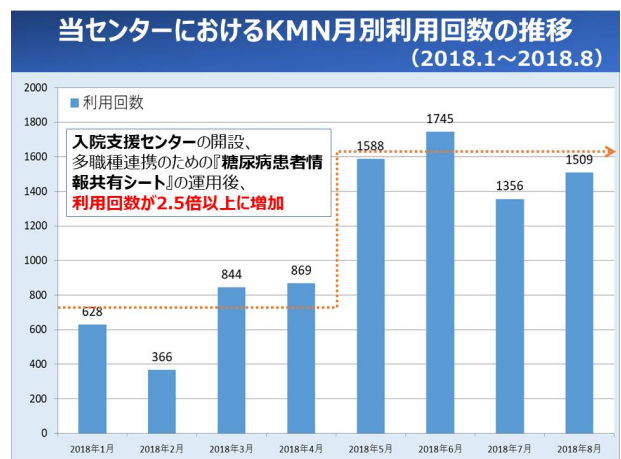


図3 当センターKMN利用回数